

【習得している知識・技能等】

- ・生産や販売に携わる人々の工夫や努力
- ・疑問に思ったことを調べる方法
- ・調べたことをノートや新聞などにまとめること

本時の学習を通して育てたい力

- 身の回りの社会事象から問題を見いだすことができ、それを解決しようとする。

- ◇学年 第5学年
- ◇単元名 工業生産と私たちの暮らし
- ◇本時の目標 身近な工業製品にも様々な工夫があることに気付き商品化に当たって工夫や努力をしていることを調べ、調べたことを考えて説明することができる。

《本時での活用とは》
既習の知識や調べ方を実生活の中で活用し、生活の中に疑問を見いだし解決しようとする。

◇学習の流れ(2時間目/全11時間)

学習活動	指導上の留意事項 (◇) (◆「努力を要する」状況と判断した児童への指導の手立て)	評価規準〔観点〕 (評価方法)
1 課題意識をもたせる。	◇右利き用、左利き用のはさみを数種類用意し、各班に配り、実際に紙を切らせて気が付いたことを発言させる。 ◇利き腕は、単なる特性、個性でしかないことをおさえる。 ◇違いが利き手によるものであること、はさみの刃の組み合わせが違うことに気付かせる。 ◇左利きの児童に発言させ、普段学校で使われるはさみは右利き用であること、左利き用があると使いやすいということを学級で共有させる。 ◇誰もが使いやすい商品にするためには、どうすればよいだろうかと投げかける。 ◇両利きのはさみを提示し、どうやって両利きのはさみをつくったのだろう、と投げかける。	
2 本時のめあてを確認する。	生産者は、商品化するためにどのような工夫や努力をしているのだろうか。	
3 予想する。 ・消費者のニーズを考えて生産している。 ・何度もつくって、試しているのではないか。	◇課題を解決するためには、どんなことを調べればよいか考えさせる。	複数の資料を読み取らせ、事象と事象とを関連付けて考えさせましょう。
4 生産者の開発の工夫や努力を調べる。 ＜資料＞ ・商品化のポイント ・商品ができるまでの過程 ・生産者の願い	◇両利きのはさみを生産している複数の企業から1つを選択させ、グループごとに調べさせる。 ◇調べる視点として、生産者の商品化のポイント、商品ができるまでの過程、生産者の願いを示し、調べさせ、複数の資料を関連付けて考えさせる。 ◆既習の内容を想起させ、資料を関連付けて考えさせる。 ◇調べたことを基に考えたことを交流させる。 ◇自分のグループの考えとの共通点や相違点について留意させて聞かせる。 ・性能がしっかりしていて、使い方が簡単であるものを生産するには、何度も試行錯誤して開発している。 ・誰もが使いやすく、買いたくなるような商品にするために、形や色なども工夫している。 ◇生産費が高くなるのに、なぜ、生産するのか投げかけることを通して、消費者に使って喜んでほしい、世の中の役に立つものを作りたいという生産者の願いがあることをおさえる。 ◇生産している企業は異なるが、商品化にかかわって、共通点があることをおさえる。	★資料を読み取らせる視点を示し、関連付けて説明させることで、社会的事象を多面的に捉えさせることができます。
5 調べたことをもとに考えたことを交流する。		各グループの発表を通して、商品開発にかかわる共通点をおさえましょう。
6 本時のまとめをする。	児童のまとめ例 企業にはすべての人にとって安全で使いやすい商品を生産し、消費者に使ってもらって喜んでほしいという願いがある。そして、商品化するために、いろいろな人が試してみて、形や大きさ、使いやすさなどを評価し、それを何度も繰り返している。消費者のニーズも大切にしている。こういった工夫や努力があって私たちは便利な生活ができていると思う。	★共通点をおさえることで、生産者の願い、工夫や努力があるという社会的な見方や考え方の習得につながります。
7 本時を振り返り、次時につなげる。	◇他にも両利き用に開発された商品はないだろうか、と投げかけ、日常の中での発見や気付きにつないでいく。	・商品化に向けた生産者の願い、工夫や努力の内容を具体的に捉え、まとめている。〔思考、判断、表現〕(発表・ノート)